

令和 2 年 1 1 月 1 2 日		
資料提供		
担当課室	農業環境・鳥獣害 対策室	農作物病虫害防除 所 本所
担当者	大谷	高岸
電 話	073-441-2905	0736-64-2300

## 病虫害発生予察特殊報(第2号)について

令和2年度病虫害発生予察特殊報（第2号）を別添のとおり発表します。



令和2年11月12日

令和2年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferris
2. 作物名：ピーマン
3. 発生地域：岩出市
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

本年8月下旬、岩出市の施設栽培ピーマンにおいてカイガラムシ類の成幼虫の寄生が確認された。成虫を採集し、農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県ではこれまで未確認のナスコナカイガラムシであることが判明した。なお、県内の他のほ場における発生は確認されていない。

本種は、平成15年に高知県で国内初の発生が報告された。その後、長崎県、愛知県、茨城県、奈良県、京都府、鹿児島県、岐阜県、岡山県、群馬県、長野県、佐賀県、千葉県、大分県、神奈川県、石川県の計15府県で特殊報が発表されている。

5. 形態および生態

成虫の体長は3～5mm、長楕円形でやや扁平であり、背面は白いロウ質の分泌物で覆われている。体周縁のロウ物質の突起は短く目立たないが、18対ある(図1)。

本種は単為生殖を行い、雄は知られていない。卵胎生のため、雌成虫は直接産仔する。産仔数は200程度で、3齢幼虫を経て成虫になる。

国内ではこれまで、ピーマン、ナス、キュウリ、パンプキン等で発生が確認されている。海外ではナス科、キク科等の草本植物やミカン科等の木本植物での発生も確認されており、広食性である。

6. 被害の特徴

葉、莖に寄生し、多発すると果実にも寄生がみられる。成虫、幼虫の吸汁による生育阻害や、排せつ物に起因するすす病によって葉や果実の汚れが問題となる。

7. 防除対策

- 1) ピーマンのコナカイガラムシ類を対象として、チアメトキサム顆粒水溶剤（商品名：アクタラ顆粒水溶剤）が登録されている（令和2年10月28日現在）。
- 2) 本種は寄生範囲が広く、雑草にも寄生する可能性があるため、施設内外の除草に努める。
- 3) 薬剤は最新の登録情報（（独）農林水産消費安全技術センターの農薬登録情報提供システム [https://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）を参照し、適正に使用

用する。



図1 ナスコナカイガラムシ成虫および幼虫

和歌山県農作物病虫害防除所  
電話：0736(64)2300